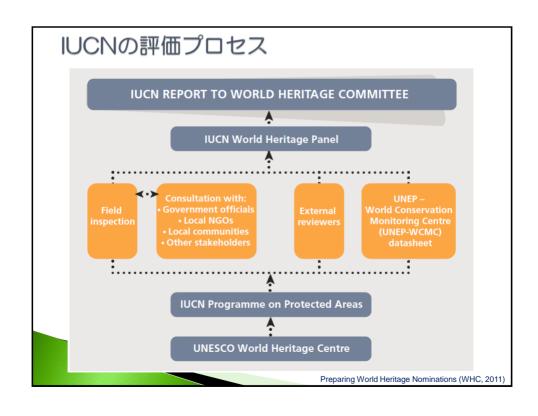
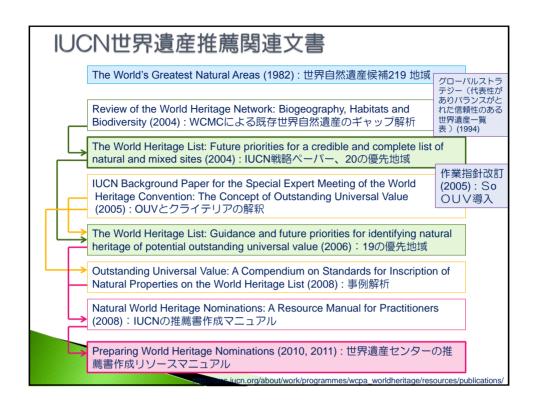
世界自然遺産登録に係る IUCNの評価に関する動向

第4回 新たな世界自然遺産候補地の考え方に係る懇談会 2012年12月3日

> (一財) 自然環境研究センター 米田久美子





IUCN戦略ペーパー (2004)

> 名称

世界遺産一覧表;自然遺産及び複合遺産の信頼できる完全な一 覧表のための将来の優先事項について

▶ 背景

- 2000年の第24回世界遺産委員会で諮問機関に、代表性が低いカテゴリー特定のための世界遺産一覧表及び暫定一覧表の資産の解析を要請
- 2004年までに登録された自然遺産149件と複合遺産23件の ギャップ解析(WCMC)に基づく。

▶検討

- ∘ クライテリア(ix)、(x)が中心(Global 200, Hotspots, EBA等と比較)。
- クライテリア(viii)については検討中→2005年にテーマ報告書
- クライテリア(vii)については事例毎に評価されるもので、国際 → 的な合意基準はないとしている。

自然遺産特定の4原則 (IUCN戦略ペーパー, 2004)

- ▶ OUVがあることが大原則
- ▶ 生態系や生息地の代表リストではない
- ▶ 地域間のバランスは存在しない(OUVは均等分布していない)
- ▶ 遺産の数には限りがある(約300:2012年現在217)



IUCN戦略ペーパーの結論

- ▶ すでに世界の生物地理区分に比較的バランス良く存在している
- ▶ Udvardyのバイオームによる解析
 - **▶** ギャップ
- すでに遺産が多いもの
- 草原/サバンナ
- 山地

• 湖沼系

- 熱帯湿潤林
- ツンドラ及び極地系
- 熱帯乾燥林
- 温帯草原
- 島嶼混合系
- 寒冬砂漠
- ▶ 生息地の型による解析-20の優先地域
 - 草原、湿地、砂漠、森林、海域
 - 2012年現在、7地域が未推薦(うち4地域は海域)

Udvardyのバイオームのギャップ (WCMC)

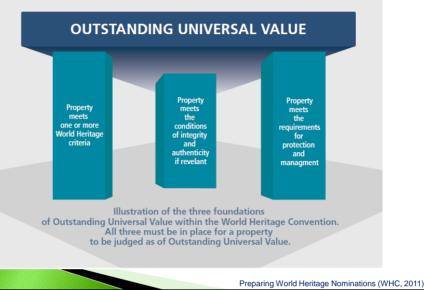
| | バイオーム | 2004 | 2012 |
|----|-----------------------|------|------|
| 1 | 熱帯湿潤林 | 26 | 31 |
| 2 | 亜熱帯及び温帯雨林 | 14 | 20 |
| 3 | 温帯針葉樹林 | 10 | 13 |
| 4 | 熱帯乾燥林または落葉樹林(含モンスーン林) | 25 | 37 |
| 5 | 温帯広葉樹林及び亜寒帯落葉低木密生林 | 12 | 27 |
| 6 | 常緑硬葉樹林及び低木林、疎林 | 9 | 18 |
| 7 | 暖砂漠及び半砂漠 | 13 | 25 |
| 8 | 寒冬(大陸性)砂漠及び半砂漠 | Ο | 1 |
| 9 | ツンドラ群落及び極地荒原 | 4 | 2 |
| 10 | 熱帯草原及びサバンナ | 8 | 7 |
| 11 | 温帯草原 | 4 | 5 |
| 12 | 複雑な地域区分を持つ山地・高地混在系 | 32 | 31 |
| 13 | 島嶼混合系 | 22 | 24 |
| 14 | 湖沼系 | 5 | 3 |

註:数が減っているバイオームがあるなど、2回の解析に一貫性がない可能性がある。 一つの遺産で二つ以上のバイオームがあるものがあり、合計数は登録数よりも多い

IUCN戦略ペーパーの勧告

- ▶ 推薦時には優先地域を参考にする
- ▶ 暫定リストを作る一専門的ワークショップと地域内の調整を経る
- ▶ 比較解析はUdvardyシステムから始め、他の分類で補 完する、海域はWWFエコリージョンが有用
- ▶ テーマ報告を継続
- ▶ WCMCのGIS取組事業支援
- ▶ シリアル推薦、トランスバウンダリー推薦の推進
- ▶ 他の国際的取組の活用(MAB、ラムサール、ジオパーク、地域的取組等)
- ■既存の遺産地域の管理改善、管理のモデルになるように

OUVの三本柱



クライテリア(vii)

- ▶ 最上級の自然現象:客観的に測定、評価が可能なことが多い(最も深い谷、最も高い山、最大の洞窟群、最大の滝など)。
- ▶ 類まれな自然美・美的価値:評価はより主観的になる傾向がある。地球規模の普遍性が必要。既存のこのクライテリアの資産と比較する。可能であれば計測可能な指標を用いて比較する。
- ▶ IUCNは本クライテリアは通常、少なくとも一つの他の自然のクライテリアと共に適用されるとしている。
 - HUCNはさらに指針を策定予定。

Preparing World Heritage Nominations (WHC, 2011)

クライテリア(viii)

- ▶ 地球の歴史:過去の地球の歴史を記録する地質学的特徴(地殻変動、造山活動、地殻プレートの動き、大陸移動と地溝帯の発達、隕石の衝突、地質年代規模の過去における気候変動などの記録)
- ▶ 生命の記録:化石
- ▶ 地形形成に関する重要な進行中の地質学的過程: 現在の地質学的過程およびその過程と地形や景観 (または自然地理)との関連性を記録する地形学 的地域(氷河や山、砂漠、活火山、川、デルタ、 島、海岸などに伴う活発な地形学的過程)
- ▶ 重要な地形学的または自然地理学的特徴物:活発 な過程の結果である地形(残存氷河地形、死火山、 カルスト地形)

Preparing World Heritage Nominations (WHC, 2011)

クライテリア(ix)

- ▶ 生態系や動植物群集の進化、発展における重要な 進行中の生態学的過程又は生物学的過程
- ▶ 地球上の生態系およびその変動に伴う生態学的および生物学的過程についての科学的知識および理解によって評価。
- ▶IUCNのテーマ報告を参考にする。
 - ▶ 化石(1994)
 - 森林(1997)
 - ▶ 湿地・海洋(1997)
 - ▶ 生物多様性(2000)
 - ▶ 山地(2002)
 - 寒帯林(2003)

- 中央アジア(2005)
- ▶ 地質学(2005)
- ▶ カルスト地形(2008)
- 火山 (2009)
- アラブ (2011)
- ▶ 砂漠景観(2011)

Preparing World Heritage Nominations (WHC, 2011)

クライテリア(x)

- ▶ 生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地
- ▶ 学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅 危惧種の生息地
- ▶ IUCNレッドリスト、植物多様性中心、世界の固有 鳥類種地域、CIの生物多様性ホットスポット、 WWFの地球上の生命を救うためのエコリージョン グローバル200などを参考にする。

Preparing World Heritage Nominations (WHC, 2011)

自然遺産今後の課題(IUCN web, 2012)

- 長期的保全と効果的な管理
- ▶ ギャップを改善し、重要な生態系・景観を保護する (海域、淡水域、陸域)
- ▶ 遺産周辺地域の景観や地域社会と関連づけ、社会的、 経済的利益が得られるように計画、管理する
- ▶ 保全のためにより広いパートナーシップが必要(地域 社会、民間、先住民、NGO等)

 $http://cms.iucn.org/about/work/programmes/wcpa_worldheritage/about_world_heritage/future_challenges/$

- ▶ 進行中のテーマ研究
 - 生物多様性(改訂)
 - クライテリア(vii) (ガイダンス)
 - 海域(ギャップ解析)





自然の価値の推薦の動向

- 対象:年1回の審議となってから10年間(2003年~ 2012年)の推薦(拡張を含む、評価が報告されたもの)122件
- ▶ うち新規80件、2回目31件、3回目11件
- 新規で記載(承認)勧告されたものは35%(登録は 43%)

